会議の概要(議事録)

会議の名称	（番号） １－２５	令和６年度第４回墨田区産業振興会議		
開催日時	令和７年２月３日（月）午後３時から午後５時まで			
開催場所	墨田区役所 122 会議室（区役所 12 階）			
出席者	委員６人（関 満博、長崎 利幸、川路 さとみ、清水 竜、平尾 伸子、郡司 剛英 産業観光部長） その他、産業振興課長・産業振興課職員が事務局として、経営支援課長・観光課長がオブザーバーとして参加した。			
会議の公開（傍聴）	公開(傍聴できる)		傍聴者数	０人
議題	１　開会 ２　講話 ３　議題 　令和５年度・６年度墨田区産業振興会議報告書（案）について ４　意見交換 ５　閉会			
配付資料	出席者名簿 資料　令和５年度・６年度墨田区産業振興会議報告書案			
会議概要	１　開会 ２　講話 　⇒関座長が、中小企業を巡る事業承継の現状を紹介した。 ３　議題 　⇒事務局から「令和５年度・６年度墨田区産業振興会議報告書（案）」の概要について説明した。 ４　意見交換 （長崎委員） ・報告書案について質問はるか。 （関座長） ・SIC ではどのような成果が上がっているか （事務局） ・集積機能として、会員数は合計 400 を超えた。うち、スタートアップが約 100 社、区内企業が約 40 社、残りはパートナー、メンターで支援者側である。共創プロジェクトも生まれ、開設以降１億円の経済効果が生まれている。資金調達は別計上で５億円程度の調達額を達成した。 （関座長） ・事務局としての評価は。			

会議概要	（郡司委員） ・立ち上がりとしては上々。区の目的は区内企業の利益になること。スタートアップ支援はそのための手段であると考えている。区内企業とお共創により付加価値を生み出すことが重要だが、その好例として、ナガセケンコーと BAKUAGE によるピックルボールのコート開発が挙げられる。 （関座長） ・商工会議所としてはどう評価しているか。 （清水委員） ・少しずつ結果が出てきていると評価している。 （長崎委員） ・ほかの共創事例は。 （郡司委員） ・東武鉄道と SlowFast のプロジェクト、千葉大の予防医学センターと東大発スタートアップとのプロジェクトが進んでいる。こうした事例がいくつも出てくれば SIC の意義も理解してもらえるのでは。東京東信用金庫は 10 億円のファンドを立ち上げ、最初の投資先となったのは 1 号はストリーモである。ストリーモの部品の一部は区内企業が受注している。 （長崎委員） ・観光でストリーモを使っているのか。 （平尾委員） ・まだ活用していないが、コネクトすみだまち処で展示し、PR している。 （関座長） ・東日本大震災時、三菱系が 50 億円のファンドを組成し、その運用を気仙沼信金に任せた。2～3 年で 100 社程度に投資が、その 7 割がカフェで復興への寄与は少ない。 （関座長） ・浜野製作所と連携するのか。 （郡司委員） ・浜野製作所は SIC の事業運営パートナーになっているので、これからもものづくりの面で連携することになる。すみだの特徴として、ものづくりを打ち出す必要がある。 （関委員） ・投資・誘致を成功させるには目利きのできるコーディネーターが大切。花巻のインキュベーション施設には優秀なコーディネーターがいて 100 社創業させた。 （川路委員） ・会議で墨田区の考え方が理解できた。コトづくりの 3 要素、アップデートの意義を広く浸透させていく必要感じている。浸透させる先は今の経営者ではなく次の世代だろう。そういう人は何かやりたくても経験と人脈がないので実現せず悶々としている。 （長崎委員） ・世代間ギャップはある。SIC でやろうとしていることやソフトウェアの話になると、60 代以上はついていけない。 （郡司委員） ・SIC は人が集まりアイデアを出すことはできるが、カタチにできない。これを補完する

	のがすみだテクネットラボ（STL）。浜野製作所がフォローできる金属以外の産業を対象としてものづくりができる場で、墨田区の基礎であるものづくりに根差した施設である。これによりハードウェアスタートアップ拠点構想の持効性を上げることができると考えている。 （清水委員） ・SIC で活動の幅が広がってきている。その取組や成果を分かりやすく発信し、共創とは何かということの理解を促進させることができれば、仲間も増えるのではないか。 （平尾委員） ・SIC のプロジェクト（すみだジュエリー）の展示発表の場として、まち処を使っている。ニーズを把握し、どういう風に関わっていくかを考える必要がある。 （郡司委員） ・SIC からどう広げるかが重要。これまでも、産業人が常に集まれる場が欲しいという声があった。SIC はこうした声に応えられる。伝統工芸の体験場所やまち歩きの拠点としても活用して欲しい。 （清水委員） ・SIC を拠点として、東京東信用金庫などのステークホルダーを含めどのような支援体制があるかを可視化できるといい。 （郡司委員） ・中小企業センターの流れをくむ相談機能は、まちの診療所としてすみだビジネスサポートセンターが担う。SIC は、これからコトを起こす人やアイデアを具現化したい人が対象。墨田区には、他にない重層的な支援体制がある。これを見えるかする必要はあると思う。 （長崎委員） ・SIC 開設から１年３か月が経過し、様々な成果が出始めている。ものづくりだけではなく、色々な業種にわたっている。ものづくりの看板は外さないことが前提なので、ものづくり企業との連携に期待したい。 ・成果を観光資源として活用できるとよい。 ・若手への期待と世代間ギャップの解消は大切なテーマ。当初思っていた以上に業種的に広がりがある。これに対応することが課題。人材の発掘・登用。 ５　閉会

所管課	・産業観光部産業振興課産業振興担当（内線：５４３３）